

住基情報をリアルタイムに位置情報化！～統合GISによる業務改革～（福島県会津若松市）

取組概要

本市では、東日本大震災を契機として、統合GIS(用途を限定せず、複数の情報を統合して運用するGIS)を導入し、地理空間情報を軸とした所属間での情報共有の促進を図った。また、基本情報として、住民基本台帳の全てをGIS上のポイント(点)情報として落とし込み、これを最新の住基情報が毎日反映される体制を構築した。

取組の効果

統合GISと住民ポイントにより、各部署の所有データを統合し、俯瞰的な視点から把握することが可能となった。
災害時要援護者の把握や路線バスの最適化作業において高い効果を示した。
統合GIS検討チームの活動を通して、GISの利用を前提とした思考が職員の間に着定した。

創意・工夫した点

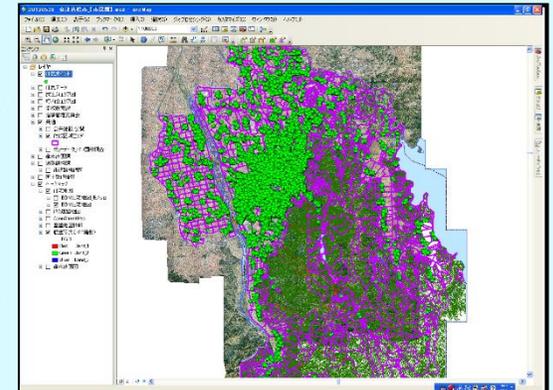
全住民の住民基本台帳に位置情報を付与した「住民ポイント」を整備し、窓口の異動手続きに住民ポイントの管理を組み込むことで常に最新状態を維持可能とした。
庁内横断の統合GIS活用検討チームを編成し、活用スキルを庁内に広めることに成功した。

他団体へのアドバイス

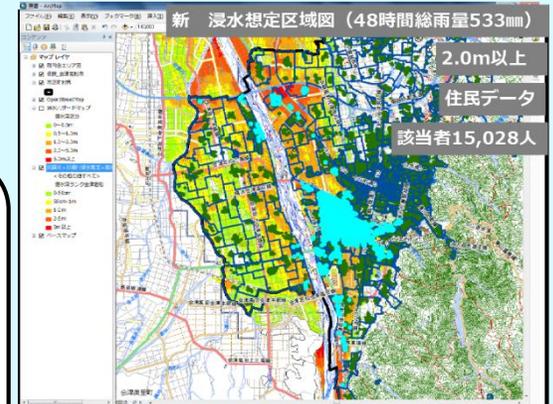
統合GISはデータが新しくなければ利用されない。
本市では、データの更新を住民情報異動の手続きに組み込むことで、データが常に更新されていく体制を構築した。
災害対応のためのツールとして、統合GISが平時から活用されるものとするには、データの更新がカギになる。

人口 119,477人 (R2.1.1現在)

担当 企画政策部 情報統計課



12万点の住民ポイント（緑色）



災害想定エリアの住民を抽出(水色)